

市民の声を市政に提言

議会報告会運営調査特別委員会

2月定例議会において、各常任委員会から2人ずつ選任された議員8人で構成する「議会報告会運営調査特別委員会」（委員長 佐々木幸一議員）を設置しました。

今後、議会報告会の開催に向けて準備を進めるとともに、市民の意見や要望など、議会として政策提言できるように調査、研究を行います。

2月定例議会では、議会が市民の身近に感じ、議員活動が一層見えやすくなるなど「開かれた議会」を実現するために「議会報告会運営調査特別委員会」を設置しました。委員は、各常任委員会から2人ずつ選任し8人で構成します。

- 今後、議会の活動状況を地域に出向いて、直接市民へ報告し、市政に関する情報の提供に努めるとともに、
- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 佐々木幸一 |
| 副委員長 | 三塚 東 |
| 委員 | 小岩 孝一 |
| 委員 | 佐々木嘉郎 |
| 委員 | 相馬 勝義 |
| 委員 | 三浦 善浩 |
| 委員 | 鹿野 芳幸 |
| 委員 | 高橋 勝男 |

8人で構成 特別委員会

3月15日、特別委員会を開催し、委員長および副委員長を選任しました。

政策提言・政策立案につなげていくため、市民との活発な意見交換を行っていき

子ども医療費 所得制限撤廃を



すがわら ゆうき 議員 菅原 勇喜

Q 子ども医療費、乳幼児医療費の入院・通院時における自己負担無料制度について所得制限の撤廃を求める。
A 乳幼児医療費助成事業が県で定めた所得制限限度額に基づき助成しているため、両事業の整合性を考慮し、所得制限の撤廃はできないと考えている。

Q 所得制限の該当者数と撤廃した場合の助成額の増額分はいくらになるのか。
A 平成22年度実績によれば乳幼児医療費助成事業（就学前）では、所得制限該当者数146人で約480万円の増額となる。平成23年度子ども医療費助成事業（小1から中3）では所得制限該当者数210人で約220万円、合計700万円の増額となる。



どの子にも制度の恩恵を

Q 若柳地区幼稚園児の送迎はどのように行う考えか。
A 県内には6町村ある。また、就学前のみ実施では2町である。よしの幼稚園に民営化される若柳地区幼稚園児の送迎はどのように行う考えか。
A 自宅から最寄の場所に乗降場を設け、通園バスの運行による支援を行う。また、園児の安全確保の観点から添乗員を同乗させる。

市議会の会派

黎明くりはら

- | | |
|------------|-------|
| 代表者 | 小岩 孝一 |
| 副代表 | 佐藤 優 |
| 副代表 | 五十嵐 勇 |
| 幹事長 | 佐々木 脩 |
| 幹事長代理 | 阿部 貞光 |
| 経理責任者兼事務局長 | 千葉 健司 |

日本共産党栗原市議会

- | | |
|-------|-------|
| 代表者 | 沼倉 猛 |
| 幹事長 | 菅原 勇喜 |
| 経理責任者 | 佐藤 文男 |
| | 鈴木 道夫 |

みらい栗原

- | | |
|-------|-------|
| 代表者 | 濁沼 一孝 |
| 幹事長 | 瀬戸健治郎 |
| 経理責任者 | 大瀧 信子 |
| | 佐々木幸一 |
| | 鹿野 芳幸 |

清流会

- | | |
|-----------|-------|
| 代表者 | 高橋 義雄 |
| 副代表 | 相馬 勝義 |
| 幹事長兼経理責任者 | 大関 健一 |
- 《会派に属さない議員》

政策フォーラム

- | | |
|-----|-------|
| 代表者 | 富塚 正夫 |
| 幹事長 | 石川 正運 |

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|------|
| 佐藤 千昭 | 佐藤 久義 | 高橋 勝男 | 三浦 善浩 | 三塚 東 |
|-------|-------|-------|-------|------|

私もひとこと

子どもたちの健康と未来を守る対策を



谷田あきこさん
(一 迫)

私が栗原市に住んで12年になります。人々が優しく自然豊かなこの土地で、生活や子育てができる喜びを日々感じておりました。

ところが、昨年の大震災での東京電力福島第一原子力発電所事故により、状況が変化しました。放射性物質が容赦なく私たちの上に振りまかれました。健康を害する恐れのあるものが、この豊かな土地やそこに暮らす人々、特に子どもたちを脅かしたことに憤りを覚えます。

私は、「汚染状況重点調査地域」である栗原市に、今よりさらに前進した対策を望みます。早急に子どもたちへの綿密な健康調査を。子どもたちの食物の安全強化・情報開示、独自の基準を設けての徹底した除染・環境整備を。現状を把握し行動していくことは、未来ある子どもたちを守ることに、子どもたちを守ることは地域そのものを守ることにと考えます。栗原市政の行動力を信じています。なにとぞよろしくお願ひします。

東日本大震災から1年

東日本大震災から1年、失われた多くの尊い生命に謹んでお悔やみを申し上げます。

栗原市は全国で最大の震度7の激震に見舞われ、甚大な被害が見受けられました。しかし、我が家は一部損壊と軽微な被害ですみ、従前と変わらない生活が送れることに感謝をしています。

震災後の昨春秋、福島県内に在住していた3歳の孫とその母親が、我が家に自主避難してきました。居住している区域の放射線測定値が高く、除染も進まず、幼児の外出が著しく制限されたので、孫が戸外で十分活動できるよう配慮したものです。一時的な避難とはいえ、孫との生活は想定外でしたが、孫の笑顔を見ていると心が和まされ、あらためて孫は宝ものだと感じ、安全・安心である栗原市を誇りに思えます。

市議会議員の皆様にとつて震災の復旧・復興は喫緊の課題であります。明日を担う子どもたちへの支援についても、より積極的な取り組みをお願いします。



司つかささん
(瀬 峰)



日ごとに暖かく、桜の便りも聞かれるこの頃です。

震災から1年、復興に寄せる強い「絆」は世界から称賛されています。政治もまた、格差社会の解消のため真の「絆」をどう発揮するかが問われています。

さて、市議会は、議会基本条例を定め、議会報告会の開催や、県・国に対しても意見を発するなど、市民の皆さんに一層開かれたものになるよう取り組んでおります。

議会、たよりも大いにその一助となるよう編集委員全員が創意工夫を重ねて参りますので、どうぞ遠慮のないご意見をお寄せください。

鈴木 道夫

議会広報編集調査特別委員会

- 委員長 佐藤 久義
- 副委員長 高橋 勝男
- 委員 菅原 勇喜
- 委員 鈴木 道夫
- 委員 沼倉 猛
- 委員 佐藤 優
- 委員 三塚 東
- 委員 石川 正
- 委員 三浦 善
- 委員 三浦 善
- 議長 佐藤 千昭